

2023年8月30日

沖縄県知事 玉城デニー 様

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

共同代表 阿部悦子（環瀬戸内海会議）

大谷正穂（辺野古に土砂を送らせない山口の声）

事務局長 松本宣崇

〒700-0973 岡山市北区下中野 318-114

電話・FAX 086-243-2927

役員

城村典文（自然と文化を守る奄美会議）

當島勝文（徳之島三町護憲平和フォーラム）

磨島昭広（鹿児島に米軍軍はいらない県民の会）

大坪満寿子（南大隅を愛する会）

歌野敬（五島列島自然と文化の会）

鈴木慶子（辺野古土砂搬出反対うきの会・熊本）

松本秀樹（辺野古土砂ストップ北九州）

湯浅一郎・末田一秀・松本宣崇（環瀬戸内海会議）

新田秀樹（広島と沖縄をむすぶドゥシグワー）

溝渕裕子（辺野古に基地を作らせない香川の会）

富田恒子（小豆島環境と健康を考える会）

柴田天津雄（辺野古のケーソンをつくらせない三重県民の会）

毛利孝雄（辺野古土砂搬出反対！首都圏グループ）

安部真理子（海の生き物を守る会）

私たちはデニー知事を支持します。

——南部土砂問題と生物多様性国家戦略を、再度の不承認理由に——

デニー知事におかれましては、辺野古新基地建設を巡る国との関係で困難な諸問題に立ち向かっておられることに感謝申し上げます。

去る8月24日、大浦湾の軟弱地盤改良工事に対する知事の設計変更不承認を巡る裁判において、最高裁で「沖縄県敗訴の見通し」との報道がありました。これを受けての記者会見で、知事は「技術的にも法律的にも県の判断は正しい」「辺野

古新基地建設に反対する思いはいささかも変わらない」とおっしゃいました。私たちは知事の決意に勇気と希望をいただき、全国からデニー知事を支え、出来る限りの行動を起こしていきたいと考えています。

私たち「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」は2015年、「どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない」を合言葉に発足しました。国が、辺野古埋め立てに使う予定の土砂の7割を沖縄県外12県(三重県のケーソンも含む)から搬出することに反対して結成した全国組織です。沖縄への県外土砂の搬入は「特定外来生物」問題など多くの問題があること、「生き物の宝庫・世界の宝」ともいわれる辺野古の海を埋めるだけでなく、「本土」側の環境破壊などを引き起こすことに異議を唱え、2019年6月には国に対し、全国から集めた60万筆余の反対署名を提出しました。

2021年4月、防衛省は設計変更申請を行い、その中で、本土側土砂搬出の大幅削減(鹿児島県、熊本県は残しつつ)と、同時に沖縄県の遺骨混じりの南部土砂の大量搬出計画を発表しました。私たちは、国の身勝手さに怒るとともに、「捨て石」とされた戦没者の遺族や沖縄の人々のお心を思い、改めて「どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない」と決心し、「南部土砂自治体意見書採択」の運動にも取り組んできました。

さらに、私たちが取り組んできたものに生物多様性の問題があります。昨年12月、第15回生物多様性条約の締約国会議は「昆明・モントリオール生物多様性枠組み」という新たな世界目標に合意し、今年3月、我が国は生物多様性基本法に基づき新たな生物多様性国家戦略を閣議決定しました。その新戦略では、「陸域・海域の30%以上を保護区にして守る」という目標を掲げています。この生物多様性の保持・回復を目指す新たな国際的流れに従えば、環境省が「生物多様性の観点から重要度の高い海域」の一つとして指定した辺野古・大浦湾の海を、基地建設のために国自らが税金を使って破壊する行為は止めるべきです。これは新国家戦略を推進せねばならない日本政府の義務のほうです。「気候変動」「生物多様性の喪失」は人類の生存にさえ関わっています。

以上のことから、私たちは、9月4日に予想される不当判決に対し、知事が再度の設計変更不承認、または埋め立てそのものの承認の再撤回を行っていただくことを心より希望いたします。その理由として、上記の「南部土砂」問題、および生物多様性国家戦略の推進を取り上げていただくようお願い申し上げます。

私たちはどこまでもデニー知事を支え、応援してまいりたいと思っております。難しい問題もあろうかと思いますが、どうかがんばってください。